

みつるクリニック

糖尿病代謝内科



平成 28 年、兵庫県尼崎市に糖尿病 代謝内科専門医院として開院。特定 健診をはじめとした各種健診に対応。特に、糖尿病・高血圧・脂質異常症・メタボリックシンドロームの基盤となる内臓脂肪量を、X線被爆を伴う CT 検査ではなく、生体インピーダンス法により計測する「内臓脂肪計」（保険外）を採用し、多くの患者さんから高評価を得ている。クリニック訪問の第 1 号に選ばせていただき、柱本満院長に話を聞いた。

事務局：早速ですが、院長は脂肪細胞の研究を専門にやられてこられました。内臓脂肪の過剰な蓄積が、血圧や糖尿病など生活習

慣病に非常に大きな影響があることは、学会では認知されていますが、一般の患者さんの認識はどのようなものでしょうか。また、内臓脂肪測定を希望される方はおられますか？

◆院長：内臓脂肪蓄積と生活習慣病との関連を認識されている患者さんは、まだまだ非常に少ないですし、検査ができることをご存じの方もまずおられません。現在、内臓脂肪測定は保険対象外ですが、むしろ、メタボリック症候群をはじめとする生活習慣病の患者さんにとっては必須の検査項目です。インピーダンス法は侵襲的な検査ではありませんので、できる限り多くの患者さんに受けていただきたいと思っています。

事務局：何か特別なことはされていますか。

◆院長：クリニック開院前の内覧会で、身長、体重、血圧測定に加えて、血糖、HbA1c の検査や内臓脂肪測定を行い、そのデ

ータに基づいた生活習慣病相談会を行いました。参加者は約 100 人で、その内 8 割程度の方が内臓脂肪検査を希望されました。開院後は、病態から判断して必要と思われる方には必ずこの検査をお勧めしています。保険外検査になりますが、お勧めした患者さんの、ほぼ 100%の方にこの検査を受けて頂けています。（みつるクリニックでは保険外で 1 回 2,000 円の患者負担に設定。）患者さん自身は、内臓脂肪量が生活習慣病に繋がっているという理解は十分ではありませんが、ひとり一人の患者さんに、検査の趣旨と意義について時間をかけてしっかり説明し、ご理解いただくように心懸けています。検査後、ご自身の結果を手にするによって、その理解も深まるように感じています。ただし、内臓脂肪に関する啓発はまだ十分とは言えないと思いますので、是非、協会の方でも更なる活動をお願いしたいと思います。特に、内臓脂

肪の過剰蓄積が、生活習慣病の発症を介して、心筋梗塞、脳梗塞などの動脈硬化性の心血管疾患に強く結びついている。こうした点についての一層の啓発が必要であろうと考えます。

事務局：内臓脂肪の説明等で苦労になることはありますか。また費用がネックになったことはありますか？

◆**院長：**例えば内臓脂肪面積70cm²とか150cm²という数値が、どの程度良いのかあるいは悪いのか、イメージしにくい部分があると思います。当院では、CT写真をイラスト化した検査報告書を作成して、ひとり一人の状態をお示しできるように工夫しています。治療経過もこれで追跡することが可能です。また、コストについては、必ず検査前にご説明しますが、費用が問題となった経験は、幸いまだほとんどありません。

事務局：院長も実践されたのですか。

◆**院長：**実は自分自身も、約半年間で10キロを超える減量を行った経験があります。減量前後で、内臓脂肪面積は大きく減少しましたが、それ以外のすべての血液検査データが、正常範囲の中でもさらに低下して驚きました。この時の、映像や

検査データも、患者さんへの説明に使用しています。

事務局：現実の診療現場では、キープレイヤーとしての内臓脂肪の過剰蓄積に注目しないで、HbA1cが高ければ抗糖尿病薬、血圧が高ければ降圧剤と、個別対応の薬剤が処方されています。また、内臓脂肪計も保険対象にならなければ広がっていかないという指摘もあります、この点についてはいかがでしょうか。

◆**院長：**HbA1c、血圧、LDL値などの高値を放置することはできないので、必要に応じて薬物療法を行います。内臓脂肪が過剰となっている患者さんの場合には、それをターゲットとした根本的な治療を行っていく必要があります。ただ単に検査値を下げる薬物療法で満足するのではなく、食事・運動療法と薬物療法を組み合わせ、実際に内臓脂肪量を減らすことのできる治療を進めることが、本当の意味で、病態に沿った治療法と言えるのではないのでしょうか。その意味でも、内臓脂肪計測や血中アディポネクチン測定などの保険適用が強く望まれます。この点について我々専門医に求められることは、当面、検査費を安価に設定してでも、とにかく内臓脂肪測定を一例でも多く実施してデータを蓄積

し、その有用性を発信していくという姿勢だと思います。当クリニックで採用しているパナソニックの内臓脂肪計は、検査時間も非常に短時間で患者さんの負担が少ないうえに、軽量で持ち運びも可能なので、様々な場所で測定が可能であるという利点もあります。

事務局：まとめとしていかがでしょうか。

◆**院長：**研究者としては、今後さらに学問的に内臓脂肪への理解を深くしていきたいと考えていますが、臨床医としては、内臓脂肪測定とその意義を患者さんに理解していただき、この検査を実際の診療の中で有効に活用していきたいと考えています。実際に、内臓脂肪面積が、治療効果判定のマーカーとして非常に有用であるという手応えを感じていますので、今後は自分自身の生活習慣病の治療戦略が少し変化していくような気がしています。

事務局：有意義なお話を伺う事ができました、本日は有難うございました。

